

平成30年度 指定管理者モニタリング結果及び評価表

1 施設の概要

施設名称	松本市南ふれあいホーム			所管課 TEL	障害福祉課 34-3212				
所在地	松本市双葉4番8号			設置年月	平成9年4月				
施設設置目的	就労することが困難な在宅の障害者(主に精神障害)を対象に、生産活動、生活指導等を行い、社会生活への適応や就労意欲の養成等を図ることで、自立支援を推進することを目的に設置したもの								
施設概要・設備	「南部福祉複合施設(なんぶくふらざ)」(鉄筋コンクリート3階建)の1階部分に設置 床面積:680.48㎡ 事務室、作業室、食堂兼娯楽室、相談室、更衣室、パン工房								
指定管理者名(選定方式)	社会福祉法人 松本市社会福祉協議会(特命)								
指定期間	平成27年4月1日～令和2年3月31日(5ケ年)								
指定管理者の 主な業務	障害者総合支援法に基づく就労継続支援B型事業所としての業務および建物の維持管理業務								
利用料金制の導入	あり 利用料金制(独立採算)								
施設の利用状況	利用区分等	利用目標	利用実績	対目標比(%)	対前年比(%)				
	利用(通所)者数	20人/1日	17.0人/1日	85.0%	90.4%				
(特記事項) 上記の法に基づく支援を受けるための手続きを、行政・関係機関で行ってから利用者(通所者)となる。									
事業収支 (単位:円)	指定管理者収支(平成30年度)				市の収支				
	収入 (歳入)	年度計画額		収支実績額		平成30年度決算		平成29年度決算	
		項目	金額	項目	金額	項目	金額	項目	金額
		自立支援給付費収入 その他収入	35,234,000 10,000	自立支援給付費収入 その他収入	30,176,312 97,829	指定管理納付金	925,000	指定管理納付金	2,080,000
		計	計	計	計	計	計	計	
		35,244,000	30,274,141	925,000	2,080,000				
	支出 (歳出)	人件費	25,784,000	人件費	23,320,988				
		事業費	1,876,000	事業費	1,710,992				
		事務費	3,223,000	事務費	2,577,860				
		指定管理納付金	2,081,000	指定管理納付金	925,000				
予備費		9,275,000	予備費	0					
	計	計	計	計	計	計	計		
	42,239,000	28,534,840	0	0					
損益	-6,995,000		1,739,301		差引	925,000	差引	2,080,000	
(特記事項)									

2 市(所管課)による評価

指定管理者の事業計画書(提案書)の内容に基づいて、その水準が達成されているかを市が点検・評価するものです。
 評価の手段は、実績報告書(毎月)及び事業報告書(年度終了時)の点検並びに立入検査(随時)等によるものです。

評価の基準	
A	(1.0) 高いレベルで実施されており、高く評価できる。
B	(0.7) 事業計画書(提案書)どおり適切に実施されており、問題は見られない。
C	(0.5) 事業計画書(提案書)どおり概ね実施されていたが、一部に不適切な部分の確認され、改善に向け対応中または対応済みである。
D	(0.0) 不適切な部分の確認されたので、改善を指示したが、未対応または改善の見込みがなく、指定管理者の取り消しを含め検討する必要がある。

小計
63

大項目	中項目	評価項目	配点	評価	評価の根拠
管理能力 24項目 50点	団体の概要	1 団体の経営状況は良好か。	2	B	4社で共同企業体を構成しており、いずれの決算報告書からも経営状況に問題となる点は見当たらない。
		2 当該施設管理運営をサポート・バックアップする体制はあるか。	1	B	それぞれ異業種の企業集団で構成されており、運営体制も連携がとられている。
	適切な管理運営	3 市の方針、施設の設置目的、業務等を的確に理解した管理はされているか。	2	B	設置目的、管理運営業務を的確に理解した事業計画となっており、適切に計画が履行されている。
		4 市が示す施設運営方針や管理の基準等に適合しているか。	2	B	管理運営方針、管理運営業務の内容及び管理基準に適合した事業計画どおり実施されており、問題は見られない。
		5 公共の仕事という倫理性や法令遵守について認識し、対応しているか。	2	B	公平な利用許可、法令を遵守した管理、個人情報の保護等に留意した適切な対応がされており、問題は見られない。
		6 市や関係団体等と緊密に連携し、責任を持って事業に取り組んでいるか。	2	B	報告書類も適切に作成され、緊急時の連絡等も密に行われるなど、責任を持って管理運営に携わっている。
	市民の平等利用	7 正当な理由なく一部の市民に利用制限や優遇が行われていないか。	2	B	公平性が確保されており、アンケートからも問題は見られない。
		8 事業内容に偏りがあり、利用者が限られることはないか。	2	B	多彩な自主事業が実施され、対象年齢が幅広く、利用者も限定されていない。
	適切な組織・体制	9 職員体制や配置人員は適切であるか。	2	B	勤務表及び日報で確認したところ、人員配置、シフト体制、勤務時間ともに問題なく、管理運営上は適切である。
		10 現場責任者、有資格者の配置、指揮系統や責任権限は適切であるか。	2	B	所長、副所長、管理スタッフは、施設の管理運営、維持管理作業の経験者であり、指揮系統、責任権限も明確になっている。
		11 労働関係法令等を遵守した労務管理規程等を整備し、業務従事者の適正な労働条件を確保しているか。	2	B	勤務表で確認したところ、業務従事者の適正な労働条件は確保されている。
	職員研修・人材育成	12 職員研修計画や業務指導に関し、適切に実施されているか。	2	B	事業計画に基づき、接客研修、安全講習を計画的に行っており、アンケート調査での市民からの意見は良好である。
		経理及び事務処理等	13 会計処理の基準等に基づき、適正に事務処理が行われているか。	2	B
	14 経理帳簿や台帳等を整備し、情報公開や監査請求に適切に対処できるか。		2	B	経理担当が本施設専用の会計帳簿により、経理の管理をしており、情報公開、監査請求に対処できる内容となっている。
	15 必要に応じパソコン等IT機器を活用できるか。		1	B	本施設のHPを立ち上げるなど、積極的に施設の情報提供などに活用している。
	16 施設や附属設備の保守点検作業は、必要な基準や仕様を満たしているか。		1	B	施設、備品について日常点検、整備業務の内容が日報管理されており、管理基準を満たしている。
	17 業務報告や事業報告が適切に作成されているか。		2	B	実績報告書及び事業報告も適切に作成され、期限までに提出されており、問題は無い。
	安全管理	18 安全対策は明確で、職員の教育・訓練の実施はされているか。	3	B	緊急時の対策として安全講習が行われており、緊急時対応が業務従事者に徹底されており、問題は無い。
		19 施設、警備体制等は適切であるか。	3	B	施設管理のマニュアルに基づき、施設の施設については徹底が図られており、問題は無い。
		20 利用者の安全確保に関する研修を実施し、職員が内容を熟知しているか。	3	B	安全確保に関する研修が計画的に実施がされ、マニュアルも整備されており、従事者への教育が徹底されている。
	緊急時対応	21 事故や災害時等緊急時の連絡体制が十分に整備されているか。	3	B	関係機関への連絡及び事故状況の把握、記録、市への連絡と報告書の作成まで、一連で緊急連絡網が作成されており、問題は無い。
		22 避難経路が確保されており、避難時に支障をきたす障害物はないか。	3	B	屋外施設のため避難経路を確保する必要はないが、施設内は整然と管理され避難時の支障はない。
	個人情報保護	23 個人情報等の具体的管理方法(書類・電子データ等)においてセキュリティ対策を講じているか。	2	B	個人情報保護方針を文書化し、適用対象者にHP等により周知している。
		24 職員が業務上知り得た秘密について漏洩防止対策を講じているか。	2	B	個人情報保護と同様の扱いとし、業務従事者への教育が徹底されている。
施設の運営 14項目 34点	業務内容	25 業務について処理・対応が適切に行われているか。	2	B	事業計画書に基づき適切に行われており、特にコースター運行上の安全対策では、独自の取り組みが行われ、高く評価できる。
		26 管理区域、業務範囲について漏れなく的確に把握されているか。	2	B	日常の巡回、清掃等が適切に行われており、管理区域、業務範囲についての的確に把握されており、問題は無い。
		27 事業の内容や施設の有効利用に創意工夫がされているか。	3	B	利用者の利便性を図るために、営業時間や休場日を変更するなど、効率のよい運営に努めている。
		28 年間の事業量が適切に実行されているか。	2	B	利用者ニーズに対応した営業時間の設定等の工夫が見られ、事業計画書に基づき適切に事業が実施されており、問題は無い。
	経費節減・業務効率化	29 事業計画書どおりの経費節減や業務効率化が実行されているか。	3	B	構成企業がそれぞれの専門的技術(土木、電気、建物管理等)を活かし、自らが施設修繕等を実施することで、経費の削減を図っている。
	備品等の維持管理	30 引き渡した備品等に過不足はないか。	1	B	備品貸出簿が整備されており、備品等の過不足はなく、問題は無い。
		31 引き渡した備品等はその機能が失われていないか。	1	B	定期的に点検が実施されている。また、必要に応じ修繕等を実施しており、備品の性能が確保されている。
	利用の促進	32 施設の利用促進に努めているか。	3	B	広告宣伝、企画運営、HPの作成、により広く情報を提供し、施設の利用促進に関し高く評価できる。
	利用者サービス	33 利用者サービスの向上に努めているか。	4	B	飲食の移動販売、夏休み期間の各種イベント等、利用者サービスを目的とした自主事業や企画が多く実施され、高く評価できる。
	障害者等への配慮	34 障害者、子ども、高齢者等の利用に配慮した管理がなされているか。	3	B	事業計画に基づき、接客研修が行われており、障害者、子ども、高齢者の利用に問題は無い。
苦情・要望等への対応	35 利用者アンケートが適切に実施されており、苦情や要望、意見等に適切に対応しているか。	3	B	苦情対応は迅速に行われた。利用者ニーズを把握するためにアンケート調査を3回実施し、業務改善を図っている。	
セルフモニタリング	36 セルフモニタリングが適切に行われているか。	3	B	報告から適切にセルフモニタリングが行われていることが確認でき、問題は無い。	
環境への配慮	37 省エネ等環境負荷の軽減や周辺環境に配慮するとともに、廃棄物は適切に処理されているか。	2	B	ゴミの分別を徹底しており、節電等の省エネ対策も積極的に取り組んでいる。	
	地域との連携	38 地域の住民や団体等との連携に積極的に取り組んでいるか。	2	B	協力団体と連携を取りながら奉仕活動を実施したが、地域活動等の情報収集が乏しく、周辺施設との連携はあまりされていなかった。
経済性 6点	事業報告及び決算	39 支出総額は事業計画書の範囲内であるか。	3	B	事業計画書どおりの事業を実施しており、問題となる点は見当たらない。
		40 事業計画書どおり、収入が確保できたか。(無料施設では、利用者を確保できたか)	3	B	事業計画書どおりの事業を実施しているが、コースターの利用料金収入が計画を大幅に上回った。

3 利用者による評価

(協定書で指定管理者に実施を義務付けている利用者アンケートの内容)

利用者アンケート	実施時期	平成31年2月5日～平成31年2月15日
	調査対象	利用(通所)者
	調査方法	アンケート用紙記入、施設内の回収箱にて回収
調査結果	別紙のとおり	
利用者からの意見 要望・苦情等	別紙のとおり	

4 指定管理者による自己評価

平成28年度の 自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 一日平均の利用者数は17.2人で、昨年度より2.4人の減少となった。これは、個々に家庭の事情等で不調となり、入院や在宅療養等となった方が多かったことによるもの。登録人数は、増減がある中、28名程で推移している。主たる対象を精神障がい者としていることから、病状等で通所が不安定となることが多く、通所予測が困難であるが、30名程の登録があればある程度のバランスが保てるものとなっている。 利用料収入は約3,025万円で、昨年度より約643万円の減となった。 平成27年度からの「工賃向上計画」に基づいた運営を行っている。今年度は313円と昨年より68円高くなっており、従来の取引先の作業量が増えたことが影響しているもの。また、重度の障がいをお持ちの利用者向けに平易な作業を得るため、単価は低くとも新規の取引先を確保できている。
要望・苦情への 対応状況	<ul style="list-style-type: none"> 職員間等での検討後、改善を試みたり、本人との話し合いを行ったりしている。匿名のアンケートの場合、対応が難しいものもあるが、年度末に弁当の注文について複数の意見があり、すぐに対応を行った。 本人の病状が安定している場合は、相談支援センター等と連携し、病状が出ていることが疑われる場合は、ご家族や医療機関等と連携を取ったりしている。
今後の目標	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、工賃が下がりにくいよう配慮しながら、利用者の適性に合った、難易度の低い作業の確保に努めたい。 作業訓練や相談支援のみでなく、社会参加に向けた取り組みの一環として、これまで通り生活訓練、社会訓練、サークル活動を継続して総合的な支援を行い、特に障がいの重い利用者のニーズや思いに対応できるよう努めたい。 研修等を通し、職員資質の向上、利用率と工賃の維持・増加に努めたい。

5 市(所管課)による総合評価

総合評価 (4段階評価) の基準		
A	(1.0)	アンケート調査結果、セルフモニタリングの内容等を含め、総合的観点から高く評価できる。
B	(0.7)	アンケート調査結果、セルフモニタリングの内容等も含め、総合的観点から標準を満たしていると評価できる。
C	(0.5)	アンケート調査結果及びセルフモニタリングの内容等、標準を満たしているが、今後改善を必要とするところがある。
D	(0.2)	改善すべき点が多く、標準に達しないと判断する。

【自主事業を実施している場合の評価】

【総合的な評価】

・就労継続支援B型施設として適正なサービス給付を行っている判断します。
 ・登録人数は減ってきているが、通所回数も増えて工賃もアップもしてきている。今後も、利用者にあった受注作業の確保、販路拡大等に積極的に努め、工賃アップを図ってほしい。
 ・南部福祉複合施設(なんぶくぶらざ)に移転していただいたが、隣接の喫茶事業については、同様の用途の事業所間で連携を図っていただきたい。

配点	評価
10	B
点数	7

合計点数

70

判断結果

適正

判断の基準	
75点以上	「良好」
60点以上75点未満	「適正」
45点以上60点未満	「要改善」
45点未満	※「不可」
※「不可」の場合、指定管理者の取り消しの処分を含め早急な改善対応を検討する必要がある。	

【別紙】

3 利用者による評価

利用者アンケート	実施時期	平成30年2月5日～平成30年2月16日		
	調査対象	利用(通所)者		
	調査方法	アンケート用紙記入、施設内の回収箱にて回収		
調査結果	1 調査対象利用者の概要			
	施設利用者数：24名 内、回答者数24名（回収率100.0%）			
	性別：男性11名、女性13名			
	年代別位：10代0名、20代3名、30代6名、40代5名、50代6名、60代4名			
	利用頻度（1週間あたりの利用日数）			
	1～2日/1W：2名 3～4日/1W：12名 ほぼ毎日：8名			
	通所年数 1～3年：8名 3～5年：1名 5年以上：15名 無回答：0名			
	2 調査項目と調査結果			
		調査項目	回 答	
	①	通所日数	増やしたい1名、今のまま18名、減らしたい3名、辞めたい1名	
②	1日あたりの作業・訓練時間	自分にとってどのくらいが良いか 2時間3名、3時間4名、4時間15名、5時間2名、無回答1名		
③	通所の目的	生活のリズム18名、居場所9名、友達や仲間8名、コミュニケーション4名、社会見学6名、工賃がもらえるから18名、作業がしたい7名		
④	施設を利用して変わった	はい8名、いいえ10名、無回答5名		
⑤	好きな作業・訓練	袋のシール貼り9名、振動版8名、社会見学7名、フォンオール7名、袋の紐通し7名、ガイドピン6名		
⑥	嫌いな作業・訓練	振動版9名、お茶当番9名、牛乳パック6名、販売6名、行事5名、刺し子5名		
⑦	利用上の感想	快適に過ごせているか はい9名、まあまあ12名、あまり2名、いいえ1名、無回答0名		
⑧	工賃について	仕組みについての説明理解できているか はい18名、どちらともいえない1名、いいえ5名、無回答0名		
	（その他） ・通所の目的：一番多かったのは“生活のリズムをつくる”			
利用者からの意見 要望・苦情等	<ul style="list-style-type: none"> ・サークル活動を週2回にしてほしい。 ・夏は少し暑いので、窓を開けるかエアコンをつけてほしい。 			